

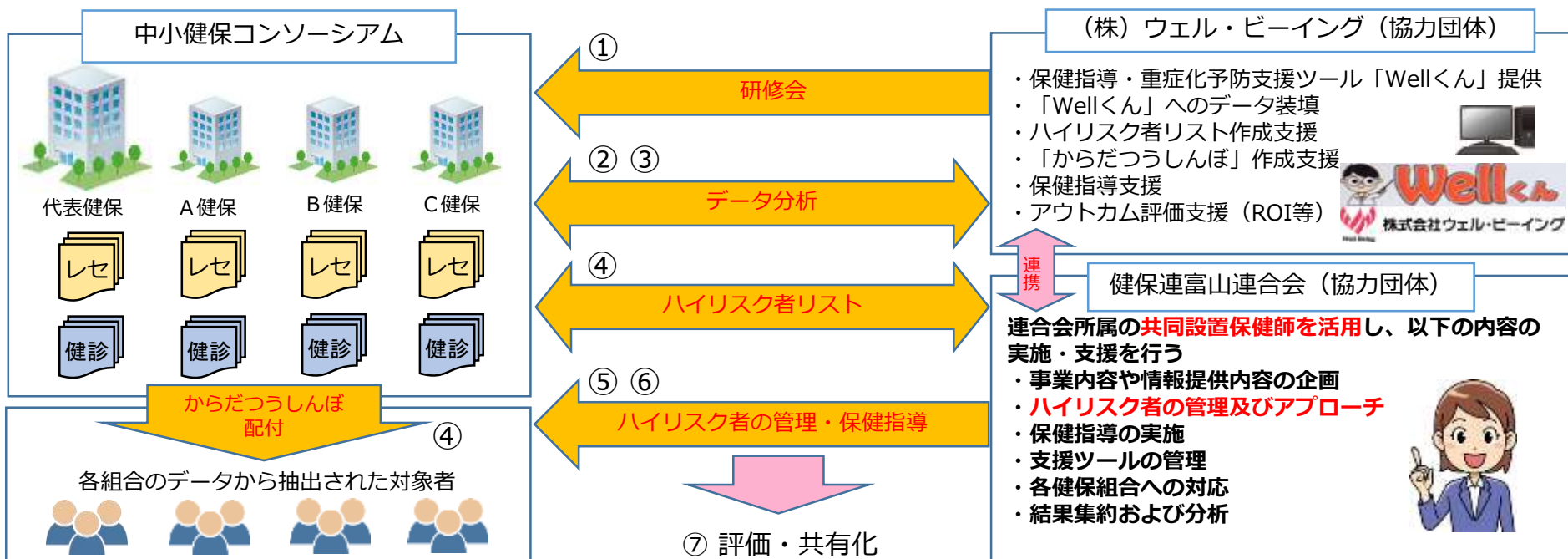
本事業の目的

ワークショップ型研修会と重症化予防支援ツールを用い、小規模かつ専門職不在の健保組合単独では難しい以下の内容を共同事業化し、効果的・効率的実施支援を実施

- ◆ レセプトデータから「予防可能で医療費が高い疾病は何か」を可視化するスキルを合同研修にて習得し、コラボヘルスに活用できる資料を作成
- ◆ 富山県内の健保組合のレセプトデータと健診データをもとに、発症または重症化の予防が可能な疾病とその対象者のリスト化を上記ツールを用いて行い、改善可能な健康課題を可視化し、費用対効果比の高い保健事業の方法を共有化
- ◆ 発症または重症化リスクの高い順から、健保連富山連合会の共同設置保健師を中心とした予防支援やハイリスク者への保健指導の優先実施を行い、成功事例を蓄積・モデル化
- ◆ 40歳未満のメタボ予備群や受診勧奨者に対する保健指導も上記ツールを用いて行い、成功事例から効果的・効率的に行う方法を共有化
- ◆ 介入後のレセプト・健診データから施策に対するアウトカム評価を行い、成功事例からモデル施策の共有化を図る。

事業の流れ

- ① 合同研修会の開催
- ② 直近の1年間のレセプトデータを用い「予防可能な疾病の医科医療費」（疾病別・性別・年代別・金額別）を把握
- ③ 過去3年分の健診・問診データを用い「予防可能な疾患の発症または重症化リスク（「Wellくん」を使用したリスクポイント）」の算定
- ④ 「からだつうしんぼ」の作成および配付
- ⑤ 対象者をリスクポイント順に並べた「ハイリスク者リスト」の作成及び共同設置保健師によるハイリスク者の管理
- ⑥ 共同設置保健師によるリスク状況に対応した保健指導の実施（「Wellくん」を使用した健康行動管理）
- ⑦ 共同設置保健師による成功事例の共有化とアウトカム評価（ROI/PDCA）→ 成功事例からモデル施策の共有化



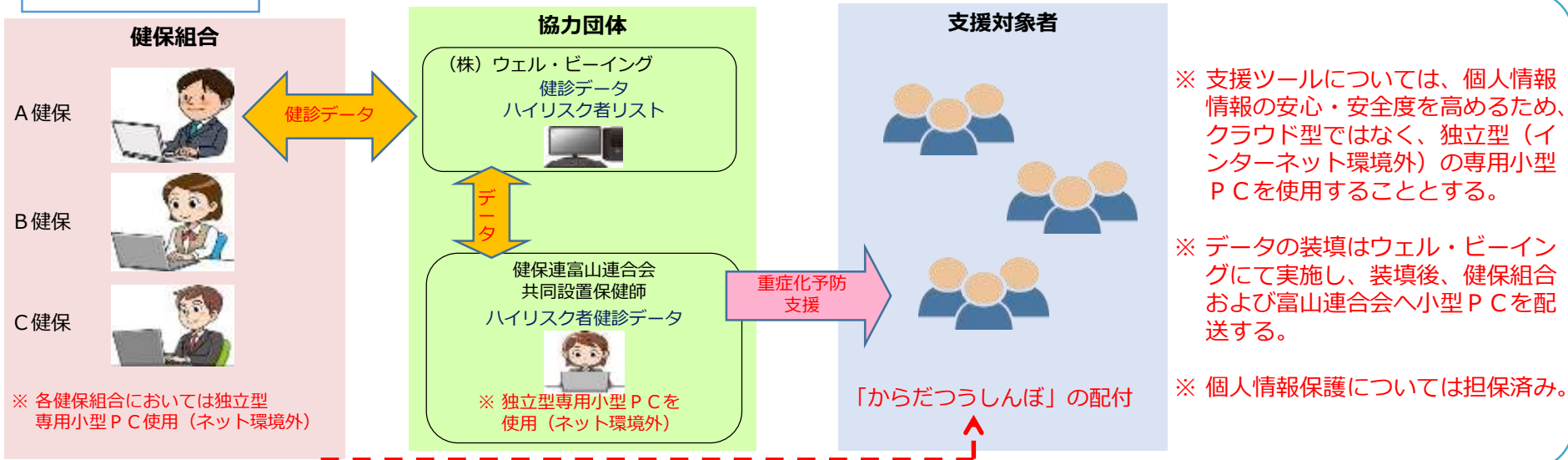
期待される効果

- ◆ 共同設置保健師が参画することで、専門職がない複数の健保組合において専門的な判断を用いて事業を展開することができる
- ◆ レセプト・健診・問診データの解析スキルの修得により、適正医療を行うために必要な解決すべき課題の可視化が行えるようになる
- ◆ 課題の可視化スキルを修得することにより、事業主をはじめとするステークホルダーへの説得力のある資料が作れるようになる
- ◆ 共同で行うこととハイリスク者リストを作成することにより、限られた予算でも費用対効果の高い保健事業が行える
- ◆ 保健指導・重症化予防支援ツールを用いることにより、短時間で質の高い個別資料を作成したり、もれのない健康行動管理が可能となる
- ◆ 課題発見→課題解決→評価までワークショップ型研修会にてフォローすることで、ハイレベルのアウトカム評価が行える
- ◆ 成功事例のモデル化により、未加入・未実施の健保に対して成功事例の共有化と効果的で効率的な保健事業の啓発が行える

予防可能な医療費を削減するためのPDCA（3年計画）

1. 医療費解析から「起こっている予防可能な疾病」を明確化（健保からの解析結果の情報提供）
2. 上記疾病において、次年度発症する可能性の高い人は誰かを3年分の健診データから予測
3. 発症リスクの高い方からもれなく最適行動（受診・受療・食行動・運動）が取れるように支援
4. 最適行動の結果、健診データ(と医療費データ)はどのように変わったかを評価
5. 評価結果から、予測システムの抽出条件や最適行動支援の方法を再検討

データ等について



今後の展開と応用性

- ◆ 健保連の他の連合会や保険者協議会へ成功事例を紹介することにより、「効果的・効率的保健事業」が展開できる
- ◆ 保健事業の成果をROI等の経済的価値に置き換えることにより、事業主への説得力が増し、「コラボヘルス」の普及が期待できる
- ◆ 発症・重症化予防支援の活動により、特定健診・保健指導の重要性や認知度が高まり、健診受診率や保健指導実施率の改善が期待できる
- ◆ 今回は対象とはしていないが、ステージⅠ～Ⅱの5年相対生存率が90%を超える乳がん・大腸がんに関しては2次検診を含めたがん検診率を高めることにより、早期発見・早期治療により重症化予防（≒がん医療費の抑制）が可能となる